

白川先生と学ぶ甲骨文字

～小四版～

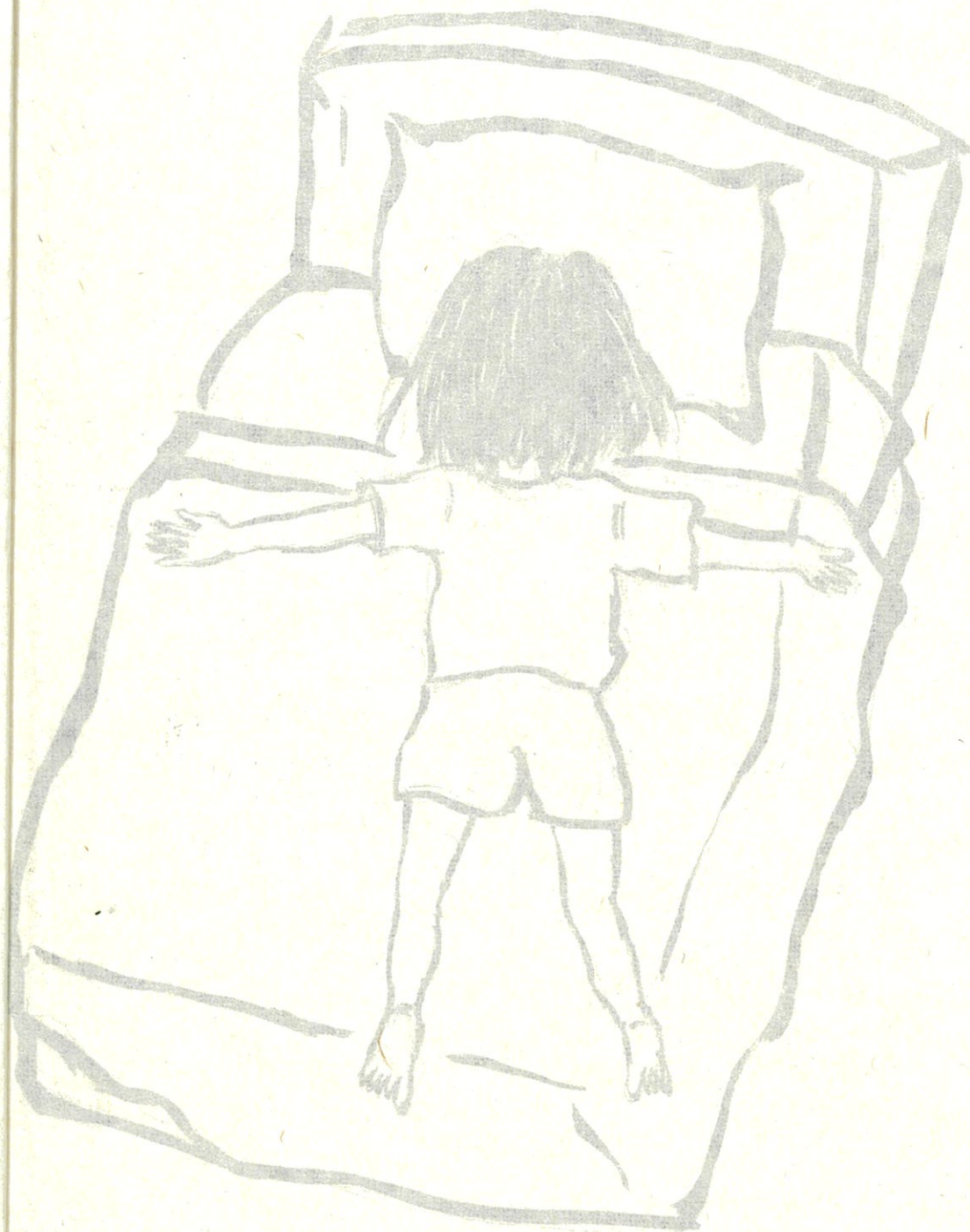
「はあ....今日も学校つかれた～」

「かん字の宿題もしたくないな～」

そう言って私はベットにぬころがった。

「ふう.....」

そうして私はぬむりについた。



「今からゲームしようかな〜」

私がゲームをしようとしたしゅんかん。  
ママが

「あなたあてに手紙がきてるわよ〜」  
と言った。

その手紙をみてみると、たっしゃな字で  
〃〇月△日の13:00に福井市福井駅  
の北口に来てください。

持ち物:水とう・かん字ノート・ひき用具  
水にぬれていい服・ヒ山服

白川 静より

「う〜ん。なんかきいたことのある名前の人だ  
な〜。とりあえず、お母さんに持ち物をしゅん  
びしてもらっていつてみよう」

そうして私は13:00に福井駅に行った。  
すると、白いかみのおじいさんが立っていた。  
「わたしは白川 静といいます。  
わたしからの手紙をもらったのはあなた  
ですね。」

「はい...そうですが...私になんの用ですか」

「たしか君はかん字が苦手だよ。  
だから、わたしの得意な分野で漢字  
を好きになつたのしく学んでほしいんだ。」

「.....わかりました。でもなにをするんですか?」


「かん字の始まりから成り立ちを一緒に  
学びに行こう!」

「はい！」

「じゃあ最初は成り立ちを学びに  
あるところに行こう」

と言われて私は車にのった。



6分後……

「さあ着いたよ。足羽  だよ。」

「このカードなんですか？…うへん、なんてよ  
むか分からないな〜」

「ヒント！一年生で習う漢字で、今後ろに  
あるものですよ」

「う————ん、あ、<sup>やま</sup>山？」

「<sup>正かい!</sup>このカードの文字は<sup>こうご</sup>甲骨文字といって漢字の  
もとになる文字なんだよ。甲骨文字は昔  
の中国の殷<sup>いん</sup>という国でつかわれていた字で  
かめのこうらにぎざんでしるしていたんだ  
このカードにかかっている  (山)は山か  
るつつらなっている形を  であらわして  
いたんだよ」

「へ～ そうなんだ！漢字ってそうやって  
できてるって知れておもしろいかも!？」

今まで漢字の成り立ちは気にせずに  
ただ漢字の勉強をしているだけだった  
からつまらなかつたのかな～とおもった。

「漢字の成り立ちについてもっとくわしく知  
りたい!」

「よお～し、じゃあもう一カ所いこうか!」

「はい!」

数分後……

「さあ、着いたよ」

「わか～足羽川だ～、魚がおよいでる!  
つかまえよと。えいっ!やあっ!とおっ!やっ、  
ん?魚にカードがはってある。圍ってなんだ  
ろう。」

「圍は又の意味をもつヨと2つあわせた  
字で、手を取り合って助け合うという意味  
となり、助け合う関係の「とも・ともだち・な  
かま」の意味になったそうなんだ。」

「へえ～、漢字・甲骨文字の1つのつくりごとに  
意味が込められているんだ～」

「そうなんだよ。」



「じゃ業でも先生から教えてもらったことを覚  
えるだけじゃなくて自分から成り立ちをしらべ  
たりへん・つくりの意味を考えたりすると楽  
しく学べるのかなあ？」

「そうだね、じゃあ駅にもどろうか。」

「はい。」

数分後、駅に着いて...

「今日はたのしかったです。ありがとうございます。」

「それはよかった。漢字の勉強がんばって  
くださいね。もうすぐわたしの名前がでて  
くるかもね。」

「えっ？」

白川先生はそう言ってにっこりと笑った。

「はっ!...えっ?うそ、夢だったんだ〜  
.....よし!!漢字の勉強しよう」

そうして私は漢字の勉強を始めたのだった。

お・ま・け 井1

その後...

先生「ほ〜い。じゃあ今日の国語は前の授業の続いて白川 静先生が研究した甲骨文字・白川文字学について勉強します。」

「えっ？」

先生「どうしたの？」

「あ.....と。なんでもありません。白川文字学たのしみです。」

そう言った後、私は机の中で漢字を教えてくれた白川先生に感しゃするのでした。

お・ま・け 井2 (この本にでてきた漢字書)



(山)



山

友

(友)

天

天